

《第1号議案》 2021年度事業報告

1. 部落問題・人権問題に関する各種の調査研究

(1) 部落問題の歴史的研究（主任研究員 塚田孝・竹永三男）

2021年度の歴史部門の研究活動について、2020年度の臨時総会で掲げた3点の研究方針に即して総括する。

1. 歴史研究部門で掲げた具体的研究課題は次の2点であった。

①中近世から現代までの共同研究の推進、前近代の賤民身分・身分的周縁と貧困・移動弱者を視野に入れた身分社会研究、近現代日本の人権と民主主義の歴史的展開とその特質の究明を軸とした地域史の再構成という継続課題に加え、

②「全国水平社創立100年」を見据えた『部落問題解決過程の研究』の発展とその具体化としての奈良県を対象として地域構造の歴史の変容の解明を主題とした新たな共同研究に着手すること

この中、①については歴史研究会で中世および近世・近代の移行期を主題とした研究報告を得、部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ分科会・歴史Ⅱ分科会で方針に即した研究報告を組織するとともに、『部落問題研究』に歴史Ⅰ・歴史Ⅱ分科会の報告論文、査読を経た投稿論文を掲載した。

また、2015年度から2期6年間科学研究費補助金の助成を得て継続してきた「行き倒れ」とその救済を主題とする共同研究（研究代表者：藤本清二郎）の研究成果報告書を補訂して、『「行倒れ」の歴史的研究—移動する弱者とその救済』（藤本清二郎・竹永三男編）を刊行した。さらに、『部落問題研究』および部落問題研究所刊行図書を初出とする論稿3編を収録した飯田直樹『近代大阪の福祉構造と展開—方面委員制度と警察社会事業—』が刊行された。

②については、『部落問題研究』240輯を「特集 全国水平社創立100年」〈その2〉とし、「近現代部落問題の歴史的研究の視点と史料」と題して、研究の視点と方法に関する論稿、奈良県を対象とした実証分析論文を掲載した。また、部落問題研究所の基本財産でもある資料室所蔵文書の解説と研究実例を示した論稿を掲載し、その研究利用を呼びかけた。

2. 科学研究費助成事業に引き続き積極的に応募し、共同研究・個人研究の発展を図るという方針については、応募課題の採択が進み、研究条件を大幅に拡大することができた。その一方、「コロナ禍」により史料調査・巡見・研究例会の開催を制限する必要が生じた。2022年度以降、この点の工夫が必要である。

①2021年度開始の研究課題

2件申請した研究課題の中の1件が採択された。不採択の1件も審査結果はA評価であり、研究計画を補訂して2021年度10月に再応募して採択内定を得た。

2020年11月に応募した奈良県を対象とする研究課題が採択され、研究代表者、研究分担者（近現代史6人、近世史3人）研究協力者（6人）で研究組織を構成して2021年度から研究を開始した。

- ・基盤研究(B)「奈良県の地域構造変容と部落問題に関する歴史的研究—地域構造分析・比較研究を通して」(研究代表者:竹永三男、研究期間:2021~2024年度)

②2022年度開始の研究課題の採択内定

日本学術振興会が採択内定の発表を早めたことにより、2021年度10月に応募した新規研究課題3件がすべて採択内定を得たことが確認された。

- ・基盤研究(C)「近世における流動層社会の構造的研究—「行き倒れ」を中心に—」(研究代表者:藤本清二郎、研究期間:2022~2024年度)
- ・基盤研究(C)「戦時・戦後における大都市近郊地域の歴史の変容と「生活課題」—兵庫県明石市の分析」(研究代表者:本井優太郎、研究期間:2022~2026年度)
- ・基盤研究(C)「高度成長期の地域変動と社会運動—泉北における文化財保存運動と泉北教組—」(研究代表者:森下徹、研究期間:2022~2024年度)

3. 研究会の開催と研究成果の発表を継続的・計画的に進めるという方針に基づき、次のように研究活動を進めた。今年度は引き続き「コロナ禍」の影響で研究例会の開催数が減少したので、2022年度は開催方法を工夫するとともに、計画的な開催を追求することが必要である。

①研究例会の開催

9月5日(オンライン開催)

報告 島津 毅:中世社会における非人身分と穢観念

9月11日(オンライン開催)

報告 ジョン・ポーター:幕末江戸の場末門前町と身分的周縁—乞胸の龍光寺門前への集团的移転を事例……

10月24日 第59回部落問題研究者全国集会分科会(オンライン開催)

歴史Ⅰ報告 神田由築:熊本藩領における地役者と旅役者

歴史Ⅱ報告 竹永三男:奈良盆地地域の部落改善運動団体と大字(旧村)・村—奈良県の地域構造と部落問題(1)

②他学会との合同研究会の開催

9月11日開催の歴史研究会(ジョン・ポーター報告)を、科学研究費基盤研究(A)「近世巨大都市・三都の複合的社会構造とその世界史的位置—〈史料と社会〉の視点から」(研究代表者:塚田孝)と共催した。

③研究成果の『部落問題研究』掲載、部落問題研究者全国集会での報告

後掲のとおり、『部落問題研究』237輯、238輯、239輯、240輯に歴史分野の論文を掲載した。また、上記①のとおり、第59回部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ分科会・歴史Ⅱ分科会で報告を得た。

以上、総じて、科学研究費補助金に申請した研究課題が採択されたことで研究の基盤を拡充するとともに、「全国水平社創立100年」を機として部落問題解決過程研究の新たな発展をめざす研究の出発点に立つことを得たが、「コロナ禍」の下で歴史研究会の計画的開催、それと連動した『部落問題研究』への投稿の勸奨などでは課題を残した。2022年度の研究活動ではこの点の改善が必要である。

(2) 現代部落問題論・人権論の研究 (主任研究員 奥山峰夫)

研究の重点として、①「人権問題意識調査」の検討、②「部落差別解消推進法」をめぐる「条例」制定などの動向の検討、③地域における人権諸課題の実証的研究、をあげて取り組んだ。

京都府教育委員会が実施した教職員の人権意識に関する調査について、2021年5月開催の研究会で石田暁の報告をもとに検討を行った。その成果は、第59回研究者全国集会の現状分析・理論分科会の石田報告へと繋がった。京都における部落問題調査に関する教育委員会や行政機関において、人権教育と称しつつも同和問題偏重の傾向などの状況や調査自体に人権侵害となっていることが確認され、引き続き京都府の府民意識調査の問題について検討をしていく必要性が確認された(2022年6月16日研究会開催予定)。

また、石倉康次らが全国水平社創立100周年記念実行委員会に参加し、部落問題解決過程の歩みと今後の課題をまとめた「記念アピール」のとりまとめ、「記念動画」の制作に参画した(<http://zjr.sakura.ne.jp/zensui100/> 参照)。

さらに、部落問題研究分野における歴史修正主義ともいえるジョン・マーク・ラムザイヤー氏(ハーバード大学ロースクール教授)の論文が2018年と2019年に2本発表されているが、これに関して研究委員会を中心とした検討を踏まえた「声明」が、2021年8月4日に理事会・研究委員会の連名で発表された(『部落問題研究』238輯に英訳文も含めて掲載)。これをふまえて、石倉康次が「部落問題解決の歩みを冒瀆するラムザイヤー論文」を『人権と部落問題』2022年3月号に執筆した。そこでは八鹿高校事件(1974年)後の運動がきりひらいた新しい局面について言及したが、これをメディアも含め市民的に共有する課題が残っていることを確認した。

なお、部落に関わる地名の公開についての議論や逆行的な動向がある。この問題に関連して、ウェブサイトでの部落の地名公表の問題が争点となった、鳥取ループ・示現社を相手取った部落解放同盟による裁判について、東京地裁判決(2021年9月)の性格と問題点の検討を進めてきた(2022年6月24日研究会開催予定)。

【現代部落問題論・人権論研究会】

5月7日 石田 暁：『人権教育に関する教職員の意識調査結果報告書』(京都府)の検討

【部落問題研究者全国集会 現状分析・理論分科会】会場は、部落問題研究所

10月24日 石田 暁：「人権教育に関する教職員の意識調査結果」の検討
—京都府を中心に—

陳 意：中国における都市住民と農村住民間の経済格差の現状
—中部地域の湖南省を対象として—

岡部 茜：若者の生活困難と居住の実践

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究 (主任研究員 梅田 修)

1. 各種の研究会での報告

【教育研究会】

教育研究会では適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。

2021年

5月16日 生田 周二：子ども・若者支援のパラダイム転換―“第三の領域”と専門性の構築に向けて―

9月19日 田中 康寛：GIGAスクール構想の危険なねらいと本質

7月18日 八木 英二：コロナ禍の教育課程編成と方法―「公正」な？デジタル教育？

12月 5日 大八木賢治：前代未聞の教科書記述の訂正―歴史用語・記述への政府の介入問題

【部落問題研究者全国集会 教育分科会】会場は、部落問題研究所

第59回部落問題研究者全国集会「教育」分科会では、テーマ「若者の自立のための教育と支援の課題」にもとづき、次の報告と討議を行った。

10月24日 杉浦 真理：若者を市民に育てる―「公共」の授業を創る―

生田 周二：子ども・若者支援の課題と実践

2. 学術論文等の発表

科学研究費助成事業（科研費）による「人権教育における人権認識の内容と形成過程に関する基礎的研究」（研究代表者・梅田修、基盤研究〈C〉2018年～2020年）の成果として、次の論稿を発表した。

森田 満夫：「戦後同和教育の遺産としての人権教育考」（『部落問題研究』第238輯、2021年9月）

（4）人権に関わる文芸の研究（主任研究員 秦 重雄）

【文芸研究会】

今年度はコロナ禍以前の状態に復帰し、2か月に一度の部会を実施することが出来た。各回の日時およびテーマは次に示すとおりである。

第220回（7月18日） 井上俊夫作『ベッド・タウン』を読む（後半）

第221回（9月19日） 菱崎博作『舞鶴湾の風』を読む

第222回（1月23日） 秦 重雄「近代の文芸と部落問題」を読む（前半）

第223回（3月13日） 秦 重雄「近代の文芸と部落問題」を読む（後半）

第224回（5月15日） 佐野 學「特殊部落の婦人達に」とその関連文を読む

なお、上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の『文芸研究会ニュース』に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、250回を数えている。

【部落問題研究者全国集会 思想・文化分科会】会場は部落問題研究所

第59回部落問題研究者全国集会・「思想・文化」分科会では（テーマ：菱崎博作『舞鶴湾の風』を読む）に基づき、次の報告と討議を行った。

10月24日 秦 重雄：菱崎博作『舞鶴湾の風』を読む

なお、『部落問題研究』239輯は「特集 全国水平社創立100年」（その1）とし

て「部落問題文芸の発掘と解説」をおこなった。「水平運動展開期の文芸作品」を10点翻刻し、書誌情報の提供と解説を付したものである。

2. 科学研究費助成事業による新たな研究の推進

2021年度の科学研究費助成事業に申請した「奈良県の地域構造変容と部落問題に関する歴史的研究—地域構造分析・比較研究を通して」（研究代表者：竹永三男／基盤研究B／5年間）が採択・交付された。この科研費研究を基盤にして、新たな部落問題解決過程の総合的地域史研究を推進してきた。

3. 部落問題研究者全国集会などの開催

2021年10月23日（土）～10月24日（日）に、対面方式とオンライン方式を併用して開催した。参加者は延べ125人（対面＋オンライン）であった。

（1）全体集会（1日目）は、「コロナ危機が問う日本社会の人権と民主主義Ⅱ」をテーマに、次の基調報告にもとづいて質疑・討論を行った。

・岡田知弘「コロナ危機からの復興をめぐる二つの道」

（2）分科会（2日目）は、5つの分科会（歴史Ⅰ・Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化）ごとに報告・討論をおこなった。

4. 『所蔵図書・資料総合目録』の作成及び図書・資料の収集・紹介に関する事業

（1）『部落問題研究所所蔵図書・資料総合目録』の作成

1) 総合目録の内容を確定した。

① 図書目録

② 資料目録—「三好文庫」「北原文庫」「水平文庫」「北川文庫」

③ 視聴覚等資料目録

2) 三カ年計画の3年度（2021年度）は、データ入力をほぼ完成し、HP掲載の準備を進めた。

（2）部落問題関係図書・資料の収集

村岡潔・山本克司編『医療・看護に携わる人のための人権・倫理読本』（法律文化社）などの図書を購入した。また、多数の図書・資料の提供を受けるとともに、歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸などに関する資料の収集を進めた。

(3) 関係図書・資料の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

5. 機関誌・研究紀要・学術図書等の刊行

(1) 『人権と部落問題』（月刊）を毎月2300部、年12回を編集・刊行した。

特集のテーマは、次の通りである。

- 「選択的夫婦別姓の実現を」（4月号）
- 「『学問の自由』を守れ」（5月号）
- 「メディアにおける部落問題の報道」（6月号）
- 「東京オリンピック・パラリンピックの行方」（7月号）
- 「戦争と平和を伝える」（8月号）
- 「生活保護裁判と生存権保障」（9月号）
- 「ジェンダー平等をめざして」（10月号）
- 「子どもの権利を守れ—コロナ禍に抗して」（11月号）
- 「高校教育が変わる」（12月号）
- 「GIGAスクール構想って何だ!」（1月号）
- 「アイヌ民族の先住権と人権保障を求める闘い」（2月号）
- 「全国水平社創立100周年の展望」（3月号）

(2) 紀要『部落問題研究』の237輯、238輯、239輯、240輯を各500部を刊行した。主な論稿は、次の通りである。

- 237輯 第58回部落問題研究者全国集会報告
- 238輯 佐々木政文「一九一〇年代の貯蓄奨励運動と被差別部落」
大杉 由香「戦前の統計等に見る児童救済の実態」
森田 満夫「戦後同和教育の遺産としての人権教育考」
塚田 孝「研究ノート：大坂『千日墓所一件』に見える心中」
- 239輯 特集 全国水平社創立一〇〇年（その1 部落問題文芸作品の発掘と解説）
秦 重雄「水平運動展開期の文芸作品とその書誌情報・解説」
ジョン・ポーター「幕末江戸の場末門前町と身分的周縁」
- 240輯 特集 全国水平社創立一〇〇年（その2 近現代部落問題の歴史的歴史的
研究の視角と資料）
広川 禎秀「部落問題の解決過程と部落問題研究の発展について」
大森 実「近現代『部落問題の歴史的な研究』が射程に置くべきもの」
竹永 三男「第一次世界大戦期の奈良県における大字＝区と部落改善運動」
西尾 泰広「資料紹介『三好文庫』所収『水平社幹部調』（抄）」
本井優太郎「北原泰作文書にみる地域の部落解放運動」
尾川 昌法「『水平新聞』の研究—『水平新聞を読む会』の報告」

研究委員会の中に『部落問題研究』の編集担当（6名）を置いて編集を検討してき

たが、定期発行については課題を残した。

(3) 関係図書の編集と刊行

1. 木村京太郎『復刻 水平社運動の思い出』（2022年3月）700部刊行
2. 飯田 直樹『近代大阪の福祉構造と展開』（2021年12月）400部刊行
3. 藤本清二郎・竹永三男編『「行倒れ」の歴史的研究』（2021年12月）
200部刊行
4. 丹波 真理『「部落」は今どうなっているのか』（2021年10月）
2000部刊行
5. 塚田 孝『近世身分社会の捉え方（第3刷）』（2021年5月）
500部刊行

6. 法人の機能を活用した各種サービス

(1) 輪読会・読む会の開催

1. 島崎藤村「家」の輪読会
コロナ禍の影響で、年2回の開催にとどまった。
2. 「水平新聞」を読む会
全国水平社創立100周年（2022年）を迎えるにあたり、「水平新聞」を読む会を月1回程度継続的に開催した。

(2) 研究会の開催

歴史、現代部落問題・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は、各種の調査研究の項を参照のこと）。会場は、明記したもの以外は部落問題研究所。

- | | | | |
|-------|-----|-----|-------------------------------|
| 2021年 | 5月 | 7日 | 現状・理論研究会（対面） |
| | 5月 | 16日 | 教育研究会（対面） |
| | 7月 | 18日 | 教育研究会（対面）
文芸研究会（対面） |
| | 9月 | 5日 | 歴史研究会（オンライン） |
| | 9月 | 11日 | 歴史研究会（オンライン） |
| | 9月 | 19日 | 教育研究会（対面）
文芸研究会（対面） |
| | 10月 | 23日 | 第59回部落問題研究者全国集会 全体会（オンライン） |
| | 10月 | 24日 | 第59回部落問題研究者全国集会 分科会（オンライン、対面） |
| | 12月 | 5日 | 教育研究会（対面） |
| 2022年 | 1月 | 23日 | 文芸研究会（対面） |
| | 3月 | 13日 | 文芸研究会（対面） |

(3) 学習講座の開催

2021年度は、全国水平社創立100周年記念事業が展開されたこともあって、学習講座は開催しなかった。

(4) 講師の斡旋

部落問題・人権問題の講師派遣については、コロナ渦の影響で依頼が減少したが、「部落差別解消推進法」に係わって開催された各種集会や人権講座への講師要請に応じてきている。

(5) 関係資料の閲覧・貸し出し

部落問題・人権問題に対する資料の貸し出し要請に対応してきた。

(6) 相談活動

部落問題・人権問題に対する各種相談に対応してきた。

7. 目的を同じくする各種機関・団体との連絡・協力

全国各地で活動している研究機関・研究会などと連絡を密にして、研究・調査・学習などの事業について、協力関係を発展させてきた。

「全国水平社創立100周年」に向けて組織された全国水平社創立100周年記念事業実行委員会に参加し、記念事業の実施に協力してきた。

8. 役員会等の開催

(1) 臨時総会の開催

2022年4月24日（日）に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

- ①2022年度事業計画
- ②2022年度資金調達及び設備投資の見込みについて
- ③2022年度収支予算

(2) 役員会

1) 理事会を 回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

- 第1回 議事 ①定時総会の議案について
(5月29日) ②2020年度監査報告について
③理事・監事の選任について
④「契約ルール」の基準について
⑤図書・資料の保存・委譲について

- 第2回 議事 ①理事長・常務理事選任の件
(6月13日)
- 第3回 議事 ①財政活動について
(7月25日) ②研究活動について
③図書・資料の整理・保存について
④「出版・印税及び原稿料に関する内規」の改訂
⑤単行本の出版について
⑥2021年度の部落問題研究所の体制について
- 第4回 議事 ①研究活動について
(9月26日) ②募金活動について
③事業活動について
④図書・資料の整理・保存について
⑤HPの更新
- 第5回 議事 ①研究活動について
(12月12日) ②財政活動について
③事業活動について
④HPの更新
⑤図書・資料の整理・保存について
- 第6回 持ち回り理事会
(2月20日) ①科学研究費関連の3つの規程の改訂
- 第7回 議事 ①和歌山県立図書館の閲覧制限問題
(4月9日) ②研究活動について
③HPの更新
④2021年度臨時総会議案について
⑤2022年度定時総会の延期に関する理事会決議

2) 監事による監査

監事(4名)は、2021年5月17日部落問題研究所において、2021年度定時総会(6月13日)に附議する業務執行状況・財産状況について監査した。

(3) 委員会

2019年度より、5つの委員会体制(編集委員会・研究委員会・財政委員会・事業委員会・資料委員会)をとっている。2021年度は、編集委員会を10回、研究委員会を7回、財政委員会を4回、事業委員会を6回、資料委員会を3回開催し、所管の事項を審議した。

(4) 所内会議・事務局会議

役職員全員による所内会議を1回開催し、部落問題研究所の運営について適宜協議した。また、適宜理事長・常務理事・職員・ボランティアによる事務局会議を開催した。

(5) 将来検討委員会

2016年7月18日に発足した第二次将来検討委員会は、2016年度は5回、2017年度は3回、2018年度は1回、2019年度は2回、2020年度は3回開催し、部落問題研究所の将来展望に関わる課題（研究活動・財政問題・図書資料の保存）について検討してきた。2021年度は開催しなかった。

(6) 会員の異動状況

2021年度末会員は、表の通りである。

会員数動向 2021年度

種別	2020年度末	2021年度		2022/3/31 現在	増減
		入会	退会		
A 12,000	218	1	16	203	-15
B 6,000	43	1	1	43	0
C 20000	74		3	71	-3
賛助D 50,000	15			15	0
E 特別会員	3			3	0
	0			0	0
種別移行計					
合計	353	2	20	335	-18

(注) 2020年3月20日の理事会で公益社団法人部落問題研究所会費規程を改定した。会員A・会員Bはそのままであるが、賛助会員Cは会員Cに、賛助会員Bは賛助会員Dに変更し、賛助会員Aは会員がないので廃止した。特別会員はEとした。

(7) ボランティアの協力

現在9名の方がボランティアとして来所されている。図書資料の整理、「会報」の作成、雑誌の編集・校正、図書資料のデータ入力の仕事に携わってもらっている。